

# 「配慮」「主張」に視点を当てた児童の人間関係形成能力の育成に関する研究 —養護教諭と学級担任が連携して行うソーシャルスキルトレーニングの実践を通して—

長期研修生 古田 まみ

## 1 研究の目的

これまで勤務してきた学校において、児童に対して支援してきた中で、友人間の悩みについての相談及びトラブルが原因で学級に入れない児童や不登校児童への支援など、児童が抱える課題の背景には、人間関係に関する課題が多くあった。また、平成28年度に愛媛県学校保健会養護部会研究部が実施した健康相談に関する調査の結果でも、保健室来室に背景要因がある児童生徒の具体的課題は、「人間関係に関すること」が最も多く、児童生徒が人間関係について悩んでいることが明らかになった。小学校学習指導要領特別活動編（平成29年告示）では、「よりよい人間関係の形成」が示されており、児童がよりよい人間関係を形成していくためには、集団の中でソーシャルスキルを身に付けさせることが重要であると考えた。「配慮スキル」と「主張スキル」を育て、そのスキルを集団の中で活用させることで人間関係形成能力を育成できるのではないかと考えた。また、養護教諭と学級担任が連携してプログラムの実践をすることで、ソーシャルスキルを一層高められるのではないかと考えた。そこで、「配慮」「主張」に視点を当てた人間関係形成能力育成プログラムを作成し、実践を行うこととした。

## 2 研究の内容

ソーシャルスキルは、人間関係に関する技能のことであり、そのスキルを獲得するための訓練のことをソーシャルスキルトレーニング（以下「SST」という。）という。ソーシャルスキル教育とは、心理療法で開発されたSSTの手法を学校教育などの教育場面に応用していくことである。その目的は、子どもの学校適応を支えるとともに、将来を見通して、子どもが人間関係の問題を抱えないためのソーシャルスキルを育成することにある。SSTは、インストラクション、モデリング、リハーサル、フィードバック、定着化の五つの流れで構成されている。

### (1) 研究協力校における実践

#### ア 人間関係形成能力育成プログラムの作成

「配慮」「主張」に視点を当てたSSTとスキルの定着化を図る「スタータイム」（事後活動）からなる人間関係形成能力育成プログラムを作成した。SSTの内容は、「関係開始」「関係維持」「関係発展」「関係解決」の区分に分け、四つの活動で構成した。

#### イ 連携シートの作成

養護教諭と学級担任が共通理解を図ることを目的に、シート1「役割分担・予定編」、シート2「単元計画編」、シート3「指導案立案編」の三つのシートを作成した。

#### ウ 人間関係形成能力育成プログラムの実践

第6学年2学級を対象に、養護教諭と学級担任が連携して、本プログラムの実践を行った。本プログラムでは、SSTの流れに沿って児童が互いに意見を交換しながら授業を展開し、「配慮スキル」「主張スキル」の向上を図った。活動後は、スタータイムを実践し、学習内容の定着を図るとともに、自分の目標を達成できたか自己評価をさせた。

### (2) 実践の検証

ソーシャルスキル尺度では、プログラム実践前後の「配慮スキル」「主張スキル」のスキル得点に向上が認められた。また、ループリックによる自己評価にも向上が見られた。各活動後の児童の感想からは、多くの児童が「配慮スキル」「主張スキル」を自分の生活と関連させて、よりよい人間関係を形成しようとする意識が読み取れた。学級担任への聞き取り調査による結果から、児童が学んだスキルを学校行事や学校生活の中で活用することで、更にそのスキルが高まったと実感していることが分かった。さらに、学校環境適応感尺度では、特に「友人サポート」と「向社会的スキル」が他の因子よりも向上していることから、よりよい人間関係のスキルの高まりを読み取ることができた。

## 3 研究のまとめ

養護教諭と学級担任が共通理解を図りながら「配慮」「主張」に視点を当てた人間関係形成能力育成プログラムを実践したことは、児童の「配慮スキル」「主張スキル」が高まり、よりよい人間関係を形成する意識の向上につながった。これらのことから、本プログラムは、児童の人間関係形成能力の育成に有効であると考えられる。今後は、本プログラムを学校行事と関連させるなど、年間計画に位置付けて実施するとその効果を高められると思われる。また、「配慮スキル」と比較して「主張スキル」の獲得がやや困難な傾向にあったことから、スキルの獲得に向けてSSTの活用場面を検討する必要があると考える。そして、他のソーシャルスキルなどを加えながら実践することで、人間関係形成能力を一層高めることが期待できるのではないかと考える。